



2026年5月期 通期決算

FY2025 Full-year Financial Results

2026年6月19日

コーセル株式会社

東証プライム 6905

コーセル株式会社、社長の齊藤です。
本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

これより、2026年5月期の実績ならびに2027年5月期の業績予想等
について説明します。

2026年5月期 通期実績

まず、2026年5月期の実績について説明します。

売上高・営業利益

売上高・営業利益ともに前年同期比で減収減益

売上高

・国内

半導体製造装置向けは、AI関連の需要回復により増加傾向

FA関連を中心に、顧客の在庫消化が進み回復基調

・海外

米国の関税政策の影響や、中国景気の低迷長期化による先行きの不透明感が残るものの、北米、アジアは回復傾向。欧州は需要調整が継続し低迷

営業利益

・売上高の減少に伴い、経費削減に努めたが、固定費負担が重く営業損失

当期純利益

・PRBX株式譲渡により、関係会社整理損を計上し当期純損失

受注高

・生成AI用GPU向け半導体製造装置関連は需要旺盛で受注が急回復

・FA・医療機器向けについても、在庫調整が進み堅調に推移

・LITEONとの共同開発製品COSELSYNC.製品の開発遅れもあり、受注獲得は次年度以降

PRBX:スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

通期実績のサマリーです。

連結業績は、売上高・営業利益ともに前年同期比で減収減益となりました。

また、連結子会社Powerboxの株式を譲渡したことで、当期純損失となりました。

その概要について、スライド本文に記載内容のとおりですが、詳細は次のページ以降で説明します。

受注高については、1Q以降、段階的に復調傾向にあります。この詳細も、後のページで説明します。

通期実績



売上高 国内を中心に半導体製造装置向け需要旺盛となり、またFA関連を中心に顧客在庫消化が進み、下期から回復基調
 営業利益 通期での売上高の減少により、固定費を吸収できず営業利益はマイナス

(単位：百万円)	FY2024 実績	FY2025							
		12月19日発表 修正予想	実績	上期	下期	前年同期比		修正予想比	
						増減	%	増減	%
売上高	27,052	24,119	25,046	11,134	13,912	▲2,006	▲7.4%	+927	+3.8%
売上総利益	7,207	-	6,036	2,597	3,438	▲1,171	▲16.3%	-	-
販管費	6,579	-	6,731	3,257	3,474	+152	+2.3%	-	-
営業利益	628	▲814	▲695	▲659	▲36	▲1,323	-	+118	-
営業利益率	2.3%	▲3.4%	▲2.8%	▲5.9%	▲0.3%	▲5.1pt	-	+0.6pt	-
経常利益	740	47	267	117	150	▲473	▲63.9%	+220	+468.6%
経常利益率	2.7%	0.2%	1.1%	1.1%	1.1%	▲1.6pt	-	+0.9pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲113	30	▲3,406	▲6	▲3,400	▲3,292	-	▲3,436	-
USD / JPY	151.84	148.61	151.95	147.22	-	+0.11	-	+3.34	-
EUR / JPY	163.62	172.77	176.74	170.54	-	+13.12	-	+3.97	-
SEK / JPY	14.39	15.58	16.19	15.45	-	+1.80	-	+0.61	-

為替感応度 営業利益 (1円変動/年)
 対USD：約20百万円
 対EUR：約 6百万円

Copyright © 2026 COSEL CO.,LTD. All rights reserved.

2026年5月期 決算説明資料

4

通期の連結実績です。

売上高は250億4千6百万円となり、前年比で20億6百万円、7.4%の減収、

営業利益は、販管費の抑制等の努力をしましたが、売上高の減少が大きく影響したことにより、6億9千5百万円の営業損失となり、前年比で13億2千3百万円の減益となりました。

上期と下期を比較して見ますと、売上高は増加傾向、営業利益は赤字縮小傾向となりました。

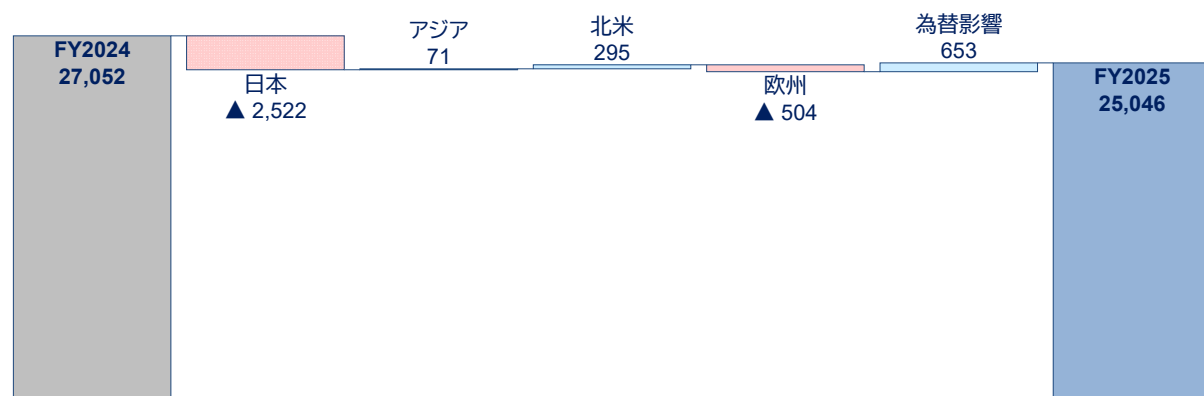
売上高増加の要因は、国内市場を中心に半導体製造装置向け需要が旺盛となり、またFA関連を中心に顧客在庫消化が進み、段階的に回復基調に向かいました。

営業利益については、売上高の増加が十分ではないため、固定費を吸収できず赤字ですが、当社が2025年12月19日に修正開示した業績予想の範囲内で進捗しました。

売上高増減[前年比]

売上高 : 250億46百万円(前年比 ▲20億6百万円 ▲7.4%)
日本 : 顧客の需要回復と在庫消化が進んでいるものの、前年比マイナス
アジア : 直近受注の回復に伴い売上高は増加してきているが、前年比では微増
北米 : 前3Qからの受注回復に伴い、売上高は増加基調
欧州 : 全体の需要の調整局面が継続し、顧客発注調整があり低調

(単位:百万円)



前年比での売上高の地域別増減です。

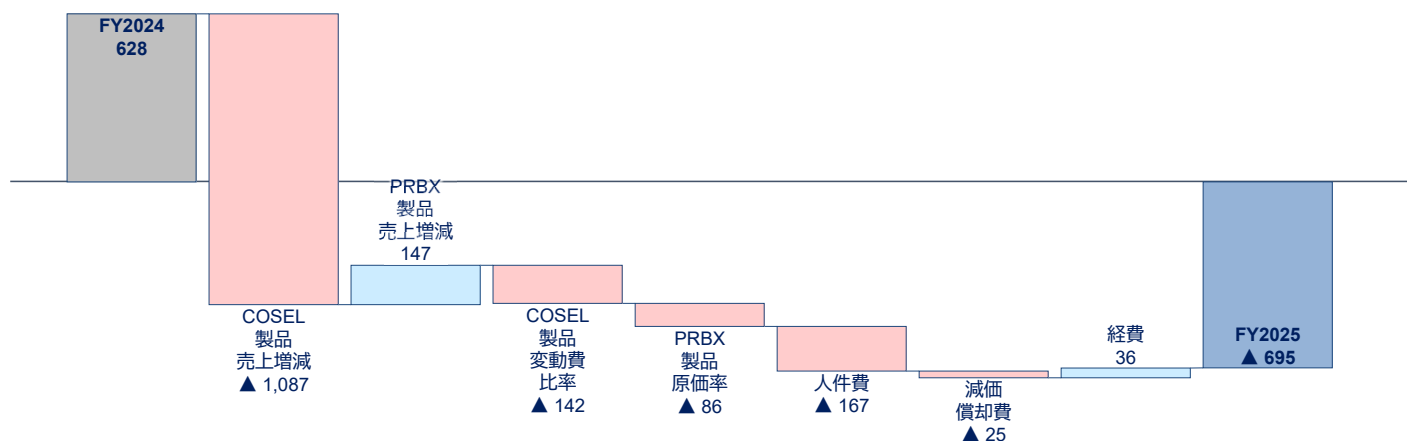
各地域での売上高が減少や微減となり、全般的に調整局面が続きました

。

営業利益増減[前年比]

営業利益: ▲6億95百万円(前年比 ▲13億23百万円)
売上高の減少に伴い収益力が低下し、経費等の抑制に努めたが営業損失

(単位:百万円)



PRBX: スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

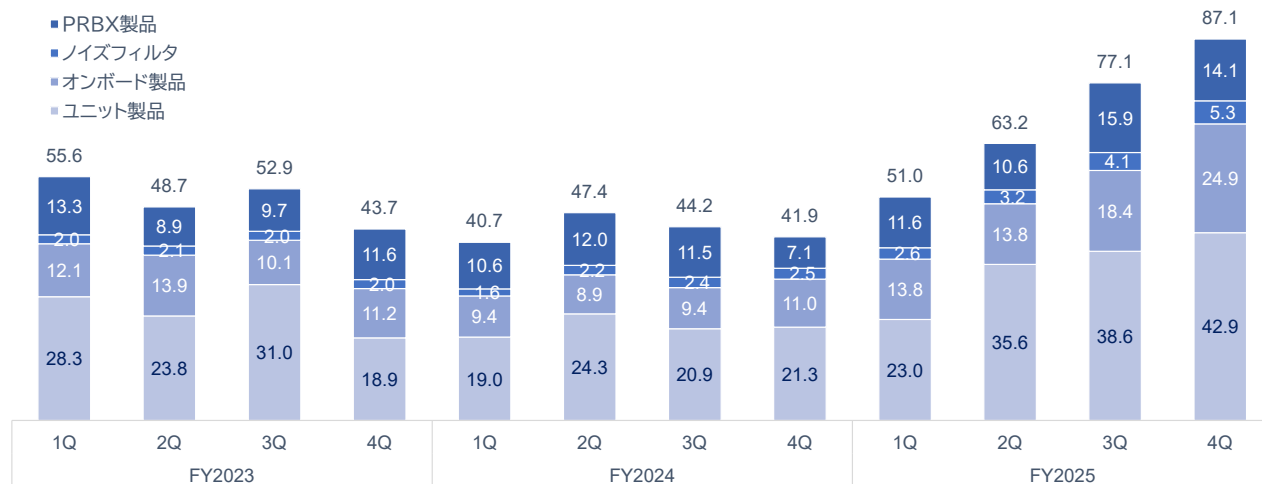
前年比での営業利益の増減要因です。

売上高の減少が一番大きく影響しました。
また、部品材料の値上げ、人件費の増加もあり、営業利益は赤字となりました。

受注高推移[製品別]

- ・ 過年度の受注増加の反動により調整局面が続いていたが、FY2025 1Q以降から回復
- ・ 生成AI用GPU向け半導体製造装置関連の受注が急回復
- ・ FA・医療機器向けの在庫消化が進み、FY2025 3Q以降は想定以上に回復

(単位:億円)



PRBX: スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

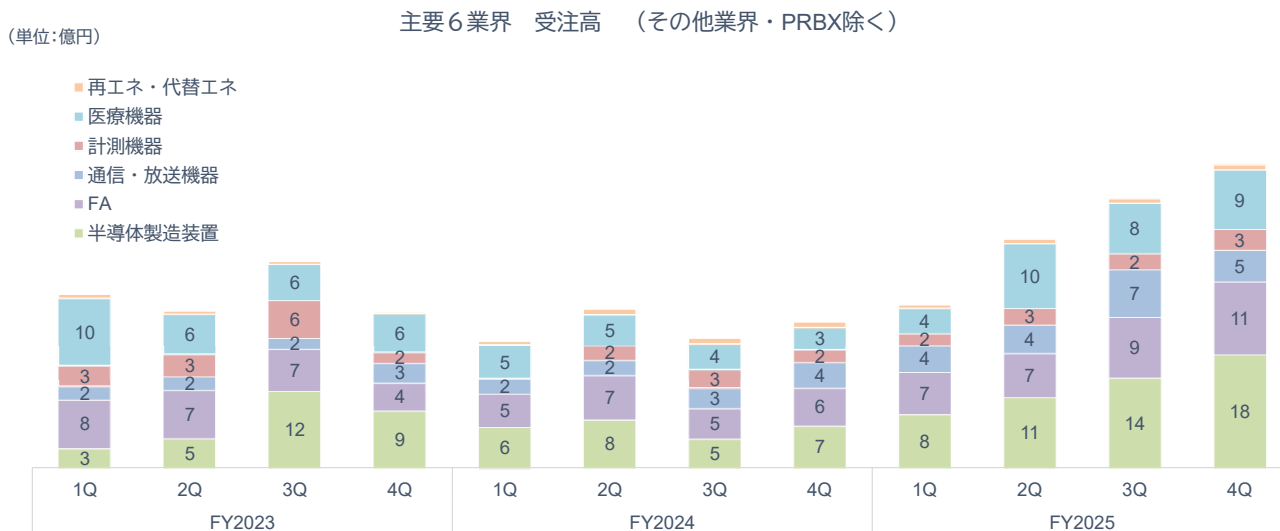
製品別の受注高です。

過年度の受注増加の反動で、2023年度以降の調整局面が続き、顧客および販売代理店での流通在庫の未消化により、新規受注が減少していました。

2025年度の1Qから回復傾向に転じており、その要因は、生成AI用半導体製造装置向けの受注増加が継続、またFA・医療・通信機器向けの在庫消化が進んでいることによるものです。

受注高推移[主要業界別]

半導体製造装置業界からの受注につき、生成AI用GPU向けが需要旺盛となり急回復



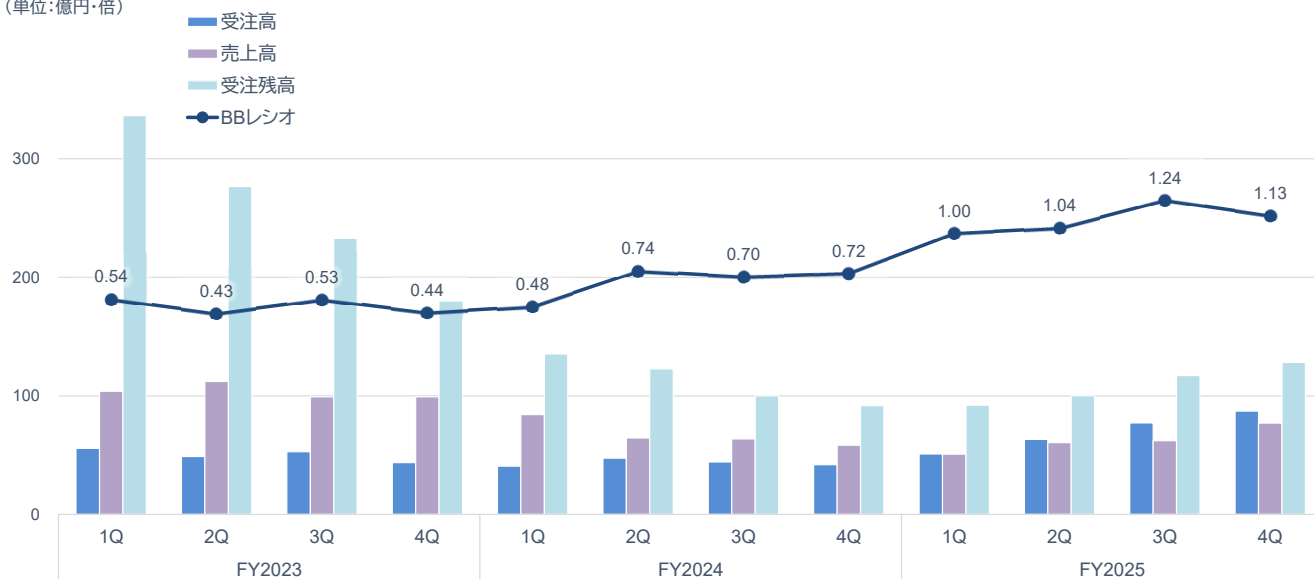
主要6業界の受注高です。

過年度の受注増加の反動により調整局面が続き、半導体製造装置や計測機器向けも受注が低調に推移してきましたが、2025年度は四半期ごとに段階的に増加しています。

特に半導体製造装置向けの増加は、その顧客装置メーカーの製品が生成AI用のメモリー製造メーカー向けに好調なことが理由です。

受注高・受注残高・BBレシオ推移

(単位:億円・倍)



受注高・受注残高・BBレシオのグラフです。
 今年度の1Qから、BBレシオが1倍を超える水準に戻ってきています。
 3Qに比べて4Qが減少しているのは、受注が売上に結び付いてきたことによるものです。

連結貸借対照表



総資産 605.76億円(+578百万円)
 現預金 283.70億円(+581百万円)

自己資本比率 86.1%(▲7.0pt)
 棚卸資産 92億13百万円(▲20億25百万円)

(単位:百万円)	2025年5月期 (2025/5/20)	2026年5月期4Q (2026/5/20)	増減		2025年5月期 (2025/5/20)	2026年5月期4Q (2026/5/20)	増減
現金及び預金	27,789	28,370	581	買掛金	1,027	1,430	402
受取手形及び売掛金	5,664	7,147	1,482	未払金	360	398	38
電子記録債権	1,517	1,610	93	流動負債 計	2,830	4,304	1,473
棚卸資産	11,239	9,213	▲ 2,025	繰延税金負債	793	937	143
流動資産 計	47,760	48,566	806	固定負債 計	1,331	4,109	2,777
有形固定資産	7,268	7,997	728	負債 合計	4,162	8,413	4,251
無形固定資産	1,040	1,027	▲ 13	株主資本	54,020	48,351	▲ 5,668
投資その他の資産	3,927	2,985	▲ 941	その他の包括利益累計額	1,816	3,812	1,996
固定資産 計	12,237	12,009	▲ 227	純資産 合計	55,836	52,163	▲ 3,672
資産 合計	59,998	60,576	578	負債・純資産 合計	59,998	60,576	578
				自己資本比率	93.1%	86.1%	▲7.0pt

Copyright © 2026 COSEL CO.,LTD. All rights reserved.

2026年5月期 決算説明資料

10

貸借対照表の概要です。

総資産は605億7千万円、自己資本比率は86.1%です。
 棚卸資産は、在庫消化により20億2千万円の減少となりました。

現預金の残高については、今後のM&Aを含めた資金用途を見極めてい
 る状況であり、今後、具体的な事案が発生する際には速やかに公表しま
 す。

2027年5月期 通期業績予想

ここからは、2027年5月期の業績予想になります。

売上高・利益

- ・半導体製造装置関連の需要増と在庫消化に伴う売上と利益増加
- ・材料コスト高騰分の価格転嫁による収益改善
- ・COSELSYNC.製品ラインナップ拡大と販売強化

原価低減

- ・新製品への置換えによる新陳代謝を推進し利益を改善
- ・LITEONサプライチェーン情報を活用によって、新しい調達先を開拓し、部材コストを低減

LITEON 業務提携

- ・業務提携シナジー発揮に向けたCOSELSYNC.製品の開発と、スピードアップのためのCOSEL開発リソースの追加投入
- ・COSELSYNC.製品の売上拡大のために販売戦略推進に向けたリソースの追加投入

今期の事業の方向性について、説明します。

売上高について、前年の下期以降の受注高を反映して、通期としてはコーセル単独製品の増加、並びに製品値上げ効果、そしてCOSELSYNC.製品の拡販効果による増加を見込んでいます。

利益についても、材料コスト高騰分の価格転嫁による収益改善がなされると考えています。
原価低減面では、購入資材の調達コスト低減活動に注力していきます。

LITEONとの業務提携については、着実に進捗しており、今後の拡大に期待をしています。

PRBX株式譲渡による事業ポートフォリオ最適化



株式譲渡の概要

- 譲渡対象: Powerbox International AB (PRBX)
- 譲渡予定日: 2026年8月
- 譲渡後も製品販売・仕入取引等を継続

譲渡の目的と期待効果

背景・課題	期待効果
<ul style="list-style-type: none">・ 欧州市場の競争環境変化・ 成長投資ニーズの拡大・ 資本効率向上の必要性	<ul style="list-style-type: none">・ 経営資源の重点領域への集中・ 資本効率向上・ 収益性改善・ 企業価値向上

業績への影響

FY2025(2026/5期)

関係会社整理損
36.3億円を特別損失に計上

FY2026(2027/5期)

- ・ 譲渡予定日(8月)までの1QはPRBX業績を含める
- ・ 2Q以降、赤字事業除外による収益性の改善を見込む

<参考> PRBX直近期の業績(FY2025)
売上高 324百万SEK 営業利益 ▲35.6百万SEK 営業利益率 ▲11.0%

PRBX: スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

2026年5月20日に、当社の連結子会社であるPowerbox International ABの全株式を、ドイツの投資ファンド会社に譲渡することの株式譲渡契約を締結しました。

本株式譲渡後も、当社はPowerboxとの間で当社製品の販売および仕入に関する取引を継続する予定です。

詳細は、2026年5月20日に公表しました、「連結子会社の異動に関するお知らせ」をご参照ください。

FY2026 通期業績予想



通期予想 売上高 半導体製造装置関連の需要増と、今期からの値上げにより増加
 営業利益 材料コスト高騰分の価格転嫁による収益改善

(単位：百万円)	FY2025 実績	FY2026		前年通期比		
		予想	上期	下期	増減	%
売上高	25,046	28,875	14,201	14,674	3,828	+15.3%
営業利益	▲695	1,335	304	1,031	2,030	-
営業利益率	▲2.8%	4.6%	2.1%	7.0%	+7.4pt	-
経常利益	267	1,539	412	1,127	1,271	+475.9%
経常利益率	1.1%	5.3%	2.9%	7.7%	+4.2pt	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲3,406	1,604	562	1,042	5,010	-
USD / JPY	151.95	155.00	-	-	+3.05	-
EUR / JPY	176.74	182.50	-	-	+5.76	-
SEK / JPY	16.19	16.50	-	-	+0.31	-

Copyright © 2026 COSEL CO.,LTD. All rights reserved.

2026年5月期 決算説明資料

14

2027年5月期、通期予想の概要です。

売上高は、288億7千5百万円、
 営業利益は、13億3千5百万円の営業利益率 4.6%、
 当期純利益は、16億4百万円を見込んでいます。

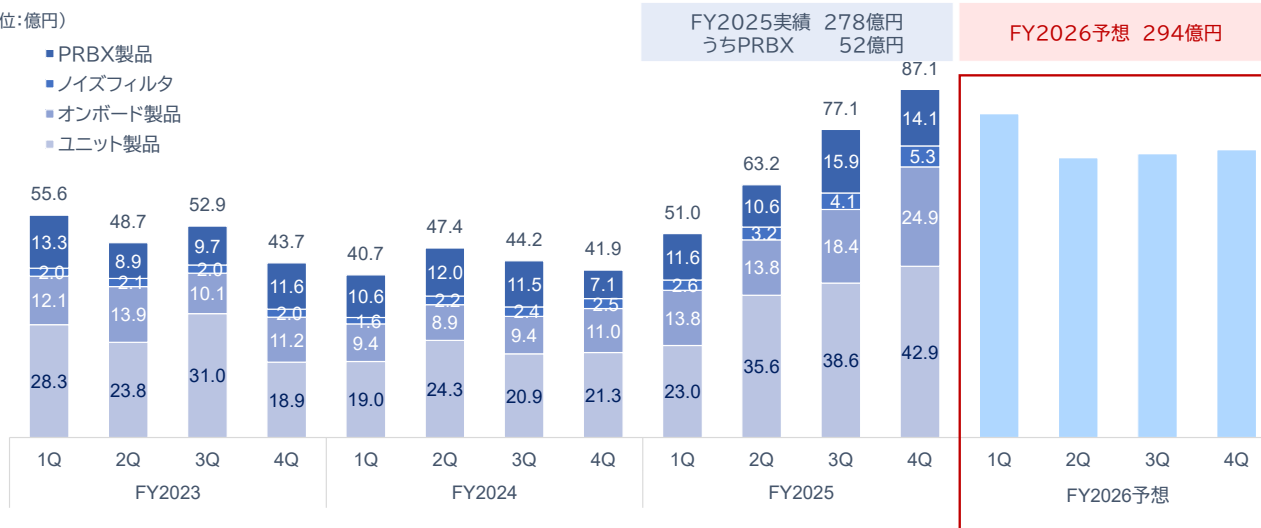
売上高の増加は、半導体製造装置関連の需要増加と、今期途中からの製品の値上げ効果が中心となります。

また、上期にPowerboxの株式譲渡にかかる業績を織り込んでいるため、上期の業績は低くなる見通しです。

半導体製造装置関連の受注増加と
FA・医療機器向けの在庫消化が進み、受注増加が継続

(単位:億円)

- PRBX製品
- ノイズフィルタ
- オンボード製品
- ユニット製品



PRBX:スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

今期の受注見通しです。

半導体製造装置関連の受注増加、加えてFAや医療機器向けの在庫消化が進んだことにより、受注は堅調に増加する見込みです。

なお、2026年度はPowerboxが無い状況となり、前年対比では増加する見通しです。

株主還元

株主還元について説明します。

累進配当の継続とDOE水準の引き上げ

(累進配当:原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策)

当社は、中長期的な企業価値向上と株主還元の充実を重要な経営課題と位置付けています

11次中期計画においては、
累進配当方針を継続するとともに、株主還元のさらなる充実を目的として、
配当水準を示す指標であるDOE(株主資本配当率)の下限を3.5%から4.5%へ引き上げます

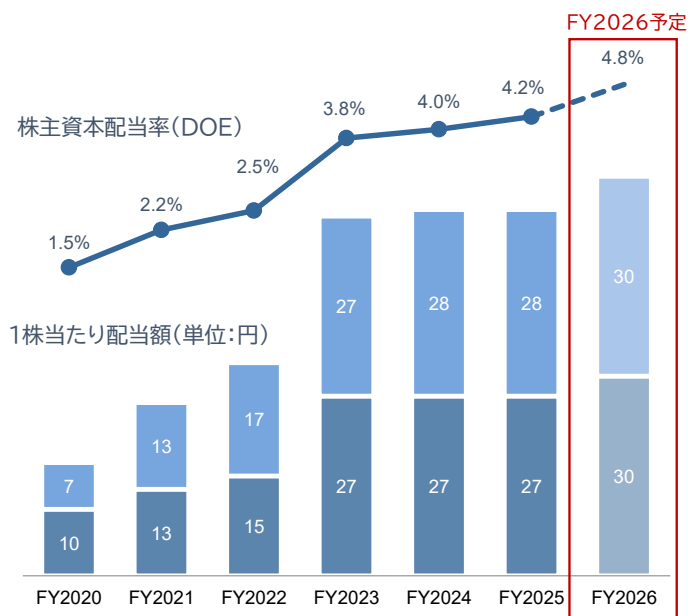
- 11次中期計画での収益回復を目指しDOE水準の引き上げ
- 累進配当を継続(原則として減配を行わない)
- 成長投資と株主還元の両立を推進
- 安定的かつ継続的な株主還元を実施

まず、株主還元強化について説明します。

当社は、中長期的な企業価値の向上と株主の皆様への還元の充実を、経営における重要課題の一つと位置付けています。

11次中期計画では、これまでの累進配当方針を引き続き継続します。
また、株主還元のさらなる充実を図るため、配当水準を示す指標であるDOE(株主資本配当率)の下限を、従来の3.5%から4.5%へと引き上げます。
これにより、資本市場からの信頼向上を通じて、資本コストの抑制を図っていきます。

2027年5月期は年間60円の配当とさせていただく予定(年間5円増配)



配当方針

- 継続的・安定的な配当の実施
DOE 4.5%以上
- 累進配当(原則として減配せず配当の維持もしくは増配を行う配当政策)
- 成長のための将来投資とのバランスを考慮しながら、資本効率向上を目指した機動的な株主還元

配当実績と予想(1株当たり)

2026年5月期実績

中間配当 27円+期末配当 28円:通期 55円

2027年5月期予想

中間配当 30円+期末配当 30円:通期 60円

FY2026より配当方針(DOE水準)を変更
変更前:DOE 3.5% → 変更後:DOE 4.5%

配当金の増配について説明します。

前期の配当について、通期で55円の配当を実施しました。

今回の配当方針の変更により、今期2027年5月期の配当予想は、1株当たり、中間配当30円、期末配当30円とし、年間で60円を予定しています。

これにより、前年度から5円の増配をさせていただく予定です。

株主の皆さまからの日頃のご支援にお応えするため、
当社の株式を1年以上継続して保有された株主さまを対象に
株主優待制度を実施いたします

優待制度の内容につきましては、株主の皆さまにご満足していただくとともに、
当社の地元・富山の地に貢献したいとの思いから、富山県を中心とした北陸地方の食料品や
工芸品をはじめとする特産品をご用意させていただきます

対象となる株主さま

毎年5月20日現在の当社の株主名簿に記載または記録された
300株以上を保有の株主さまを対象とします

詳細は、同日付けで公表しました、別紙「株主優待制度導入に関するお知らせ」をご参照ください

株主還元強化の2つ目として、株主の皆さまからの日頃のご支援にお応えすべく、「株主優待制度」の導入を行います。

これは、当社株式を1年以上にわたり、継続して300株以上保有された株主様を対象に行うもので、当社本社のある富山県を中心に、石川、福井の北陸3県の食料品、工芸品などの特産品をご提供させていただきます。

詳細につきましては、別に公表しました「株主優待制度導入に関するお知らせ」をご参照ください。

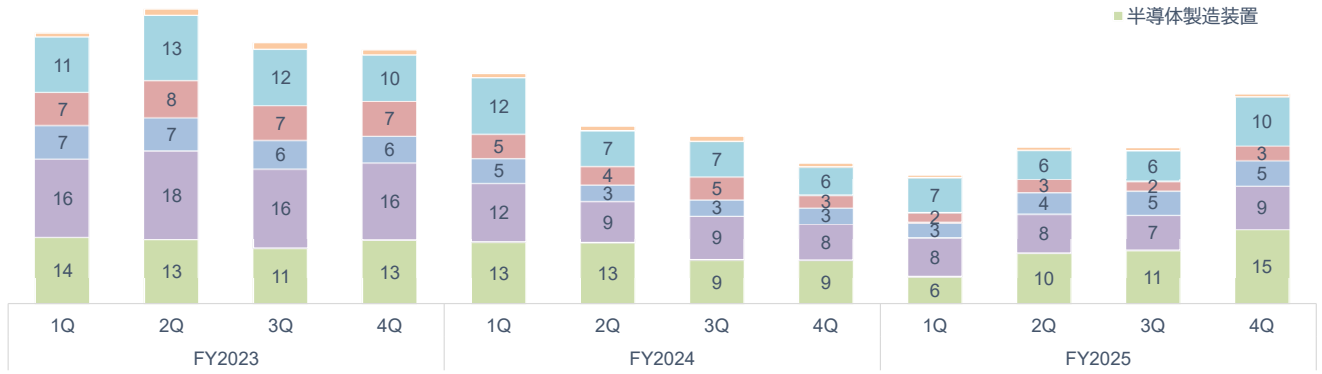
参考資料

売上高推移[主要業界別]

主要6業界 売上高（その他業界・PRBX除く）

(単位：億円)

- 再工ネ・代替工ネ
- 医療機器
- 計測機器
- 通信・放送機器
- FA
- 半導体製造装置

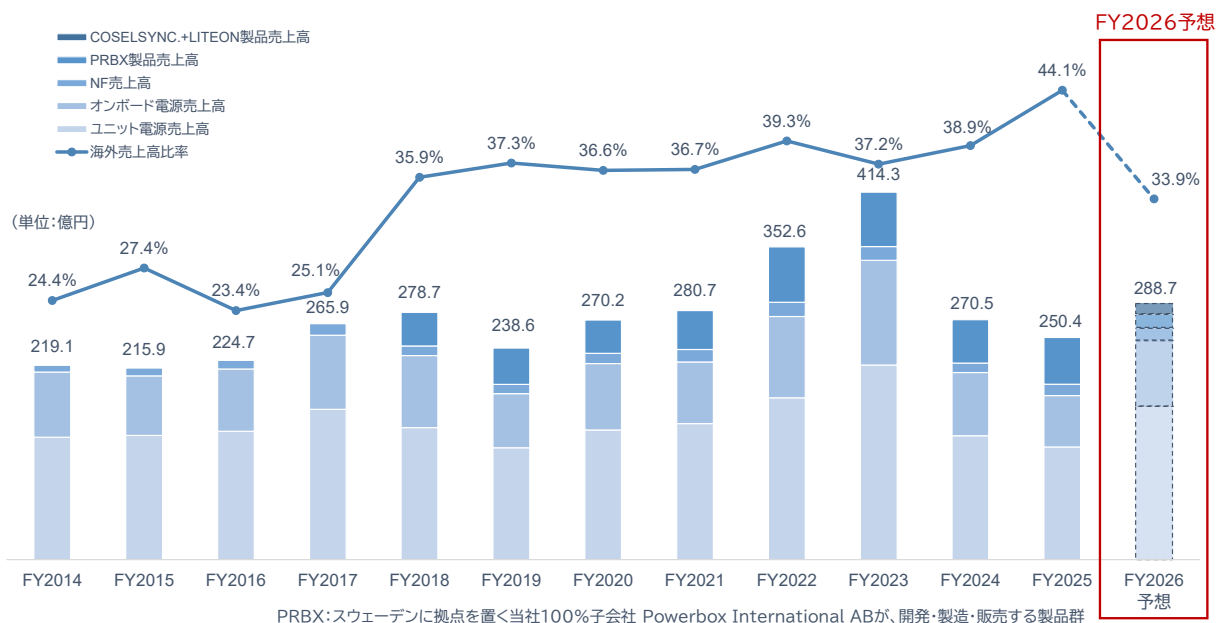


四半期業績推移



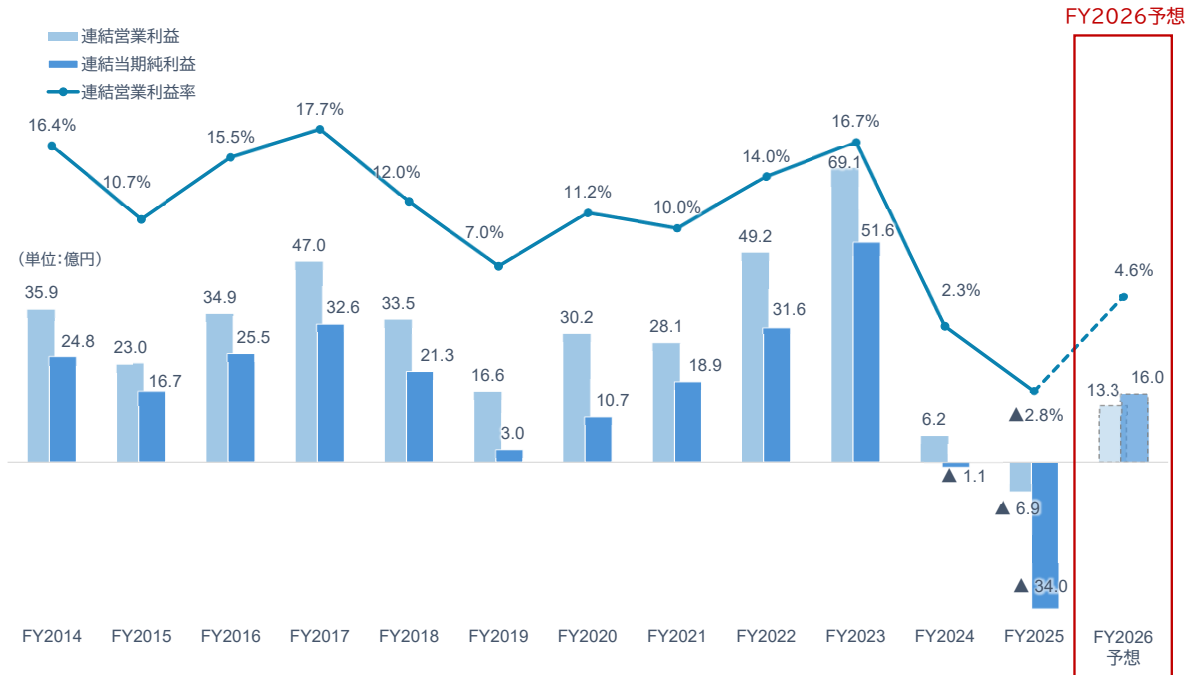
(単位：百万円)	FY2023				FY2024				FY2025			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	10,390	11,211	9,919	9,915	8,409	6,445	6,361	5,835	5,075	6,058	6,211	7,700
売上総利益	3,593	3,830	3,380	2,939	2,437	1,611	1,667	1,491	1,297	1,299	1,438	1,999
販管費	1,529	1,675	1,607	2,018	1,859	1,555	1,571	1,593	1,687	1,569	1,678	1,796
営業利益	2,063	2,154	1,772	921	578	55	95	▲102	▲389	▲269	▲239	203
営業利益率	19.9%	19.2%	17.9%	9.3%	6.9%	0.9%	1.5%	▲1.8%	▲7.7%	▲4.5%	▲3.9%	2.6%
経常利益	2,268	2,629	1,824	1,126	464	129	45	101	▲79	196	▲107	258
経常利益率	21.8%	23.5%	18.4%	11.4%	5.5%	2.0%	0.7%	1.7%	▲1.6%	3.2%	▲1.7%	3.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,682	1,856	1,118	511	293	▲14	2	▲395	▲68	62	▲234	▲3,165

FY2026は、PRBX株式譲渡による海外売上高比率の減少

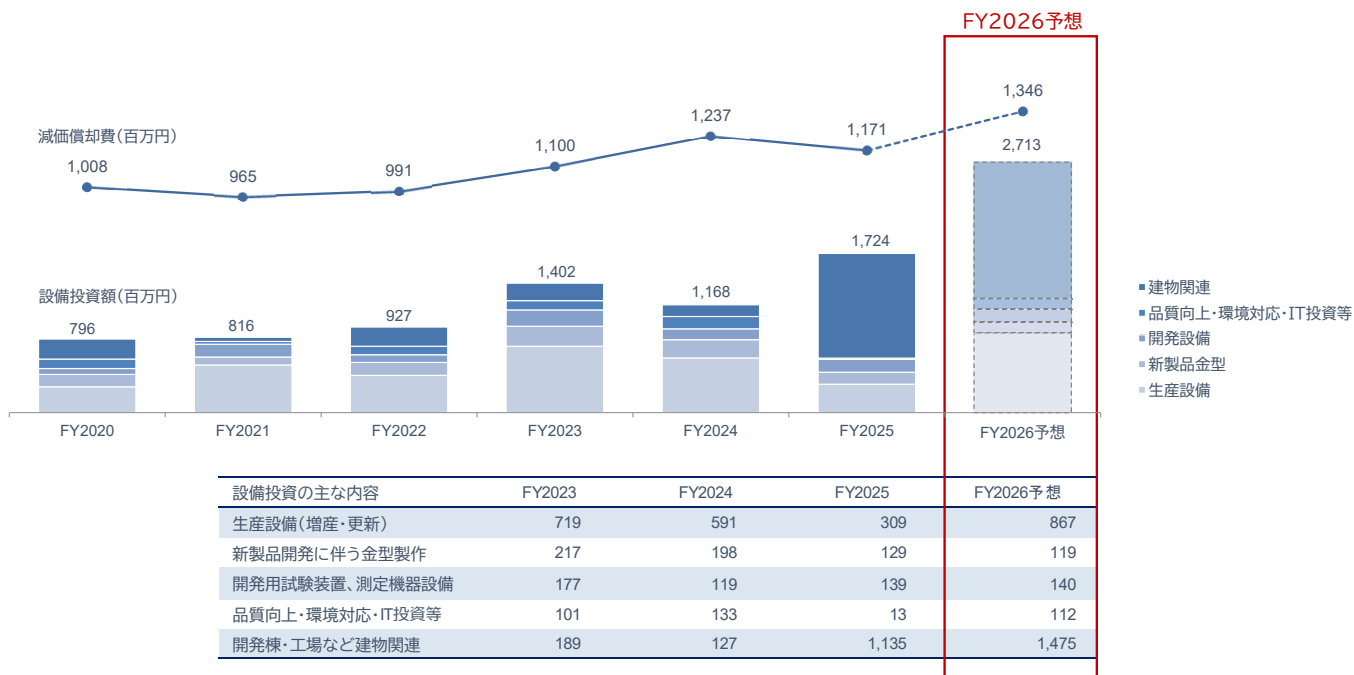


PRBX:スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群

連結利益

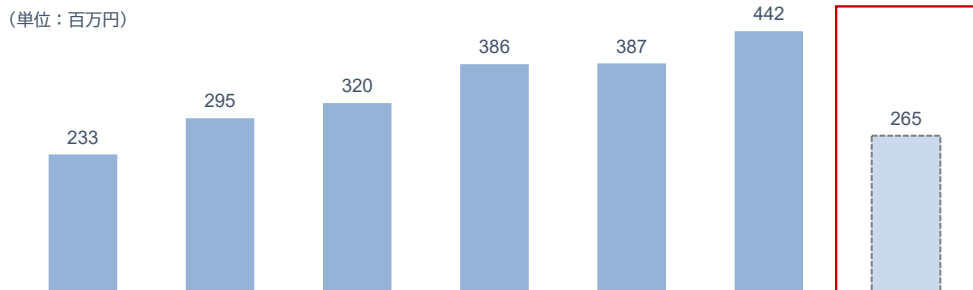


設備投資・減価償却費



FY2026は、PRBX株式譲渡による研究開発費の減少

(単位：百万円)



	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026 予想
研究開発費 総額	233.4	294.6	320.3	386.0	387.2	441.8	265.0
人件費	184.6	215.0	239.6	300.4	309.3	353.6	170.0
経費	48.8	79.6	80.7	85.6	77.9	88.2	95.0

単体 : 研究開発費(製・販)+研究部の費用
 無錫 : 開発部署の費用
 PRBX: 技術資産の増加分

PRBX: スウェーデンに拠点を置く当社100%子会社 Powerbox International ABが、開発・製造・販売する製品群



将来に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上で、通期決算の説明を終わります。